

# 令和7年7月21日（月） 読売新聞 朝刊・地域面奈良

## 「名のない人を書きたい」

直木賞作家・澤田瞳子さん講演



「過去を物語ることは、未来のあり方を考えることになる」と語る澤田さん（奈良市で）

### 薬師寺月例 まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が20日、奈良市の薬師寺で開かれ、直木賞作家・澤田瞳子さんの講演に約100人が聴き入った。

澤田さんは2021年、「星落ちて、なお」で直木賞に輝いたほか、文学賞を多数受賞。出身の同志社大客員教授を務める傍ら、同大学でアルバイト勤務を続けていと明かし、「小説家は『先生』と呼ばれるが、作品の中では名のない人たちを書きたいし、自分はそういう人間でありたい」と考えを述べた。

また、奈良時代の疫病の流行を描いた作品「火定」が17年に出版された後、コロナ禍が起ったことに触

れ、「想像で描いた光景が現実問題になった。過去を物語ることは、未来のあり方を考えることになる」と語った。

次回の月例塾は8月17日、21年に行われた東京五輪日本代表の競泳選手、砂間敬太さんが講演する。